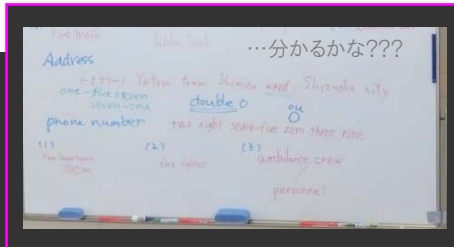


# 「消防学校ニュース」



平成 29 年 7 月 31 日発行



まずは  
初任科学生の活動ぶり  
をご案内します。  
いつもとは違った  
文化・教養の香りを  
ちょっぴり添えて…



## 「体力」だけじゃありません!! “毛筆” “英語” “手話” も学びます

初任科では、消防に関する専門的な知識や技術・技能の習得ばかりでなく、消防職員として大きく成長してもらうための研修として、**毛筆**、**英語**、**手話**も勉強します。**毛筆**では毛筆の基礎と様々な書体など、**英語**では身体部位の語彙など実用的な英語を、**手話**では聾啞者との意思疎通のための基礎知識や具体的手話を学びました。



## 訓練への御協力に感謝します!!

初任科学生が鉄製シャッターをエンジンカッターで切断する実技訓練を実施しました。



本校では、平成6年度より、文化シャッターサービス(株)の御厚意で、シャッター等を校内に搬送・設置していただき、訓練を行っています。  
中部サービス支社の職員の方には、訓練時の立会いを含め、長年にわたり訓練環境を御提供いただいております。多大なる御支援、御協力に対して、厚く、厚くお礼申し上げます。



初任科の救助訓練では、スイミング、スキューバダイビング等を経て、スクーバダイビングの実技訓練を実施しました。基礎訓練の後は慣熟訓練として、水深5mまでの潜水にもチャレンジしました。

訓練では、静岡市消防局の水難救助隊員4名の皆さんに、水中からの安全監視に当たっていただきました。実に頼りがいのあるサポートです。御協力に対して、深く感謝申し上げます。



## 学生激励!!

7月21日、浜松市消防局の加藤 忍 南消防署長、伊藤 一彦 浜北消防署長のお二人が、初任科学生の視察・督励のため来校くださいました。お暑い中、初任科学生ばかりでなく、本校教官にも温かいお言葉をくださり、ありがとうございました。



それは2017. 7. 25の出来事



# コードブルー～ドクターヘリ 緊急救命

## 車両横転事故へ



# 消防学校全面協力 ミッション!!



14:45 静岡市消防局指令課より、消防学校あて連絡あり。(受:副校長)

「薩埵峠の周辺で車が横転。負傷者多数発生、重傷者のドクターヘリ搬送を考えている。救急隊とのドッキングポイントとして、消防学校のグラウンドを使用したい。」(副校長 → 校長へ説明・報告 → 校長 許可)  
消防学校より指令課あて、グラウンド使用の許可及び支援態勢をとる旨を返信。



14:47  
3班に分かれて訓練を実施していた初任科学生のうち、消防活動応用班を使い、ヘリ着陸に備えた飛散防止措置等を講じる。



【翌日の朝刊より】

25日午後2時10分ごろ、静岡市清水区興津井上町の市道で、未成年の男女7人が乗る軽自動車横転した。後部座席の清水町の少女(16)が頭部を強打し重体。運転していた富士市の少年(18)を含む13～18歳の男女6人が重軽傷を負った。

坂口副校長(左側)が全体指揮

15:07

傷病者(重症)1名を搬送する救急隊が消防学校へ到着



15:14 待機



15:13  
救助隊がヘリ及び救急隊支援のため消防学校に到着



15:16 ドクターヘリ 学校上空へ



15:17  
ドクターヘリ着陸  
副校長の指導の下、  
学生代表がヘリ誘導

15:31 ヘリ離陸

(静岡済生会総合病院へ傷病者を搬送)



# Mission Completed

15:30  
ドクター&ナースの1チームが  
救急車で事故現場へ出動



ヘリ搭乗のフライトドクター、フライトナースが傷病者へ接触

ヘリ支援  
(安全管理・飛行方向の指示)

初任科学生たちにとって、去る7月14日、県消防防災航空隊ヘリコプターとの航空救出訓練を実施したばかりでの実践となった。学生たちの活動は迅速かつ適切であった。その前提となったのは、「的確な現場指揮」である。



15:27  
傷病者をヘリに収容

# 「水難救助科 第25期」 始めました

平成 29 年 7 月 24 日(月)～8月4日(金)



静岡県は、全長 500 km に及ぶ長い海岸線、大小数多くの河川や湖沼などにより豊かな水辺環境を有していることから、県内外から多くのレジャー客等が訪れ、全国的にも水難事故の多発県となっています。本県消防にとって水難救助は重要な業務であり、「県内の水難事故による犠牲者をゼロにする」という大きな目標に向かって取り組みます。

※ 平成 28 年本県の事故発生件数 57 件(全国6位) 死者 25 人 無事救出者 30 人



## 入校式 校長より…

他の専科と比べ、高い危険性が訓練自体に常に潜在していること、まずは自身が自己の安全を図ることを一人ひとりが十分認識し、訓練に臨んでもらいたい。…

本校では現在、初任科学生が訓練に励んでおり、学生たちは先輩消防士の態度や行動に注目している。寮生活における規律の厳守など、教育訓練中、常に初任科学生の手本となってもらいたい。…



入校式に引き続き、担当教官によるオリエンテーション



## 第 1 週から河川(富士川)での厳しい訓練



第2週は、学校でのスクーバダイビング、清水港三保海水浴場での応用訓練、用宗港外港での総合訓練が待っています。

県内消防本部から推薦されて入校した水難救助科第25期生は23名。2週間にわたる、より実践的な訓練で、水難救助のプロを目指します。



## われら精鋭部隊！④ 【教官紹介コーナー】

主査 穴井 一滋 (湖西市消防本部から派遣)



水難救助活動は水中での救助活動であり、常に危険が伴います。そのため、仲間との「連携」、「チームワーク」が特に重要となります。

第25期水難救助科は、総代を中心にまとまりがあると感じます。約2週間という短い期間ですが、1日1日の過酷な訓練をチームで乗り越え、救助技術の研鑽、仲間との交流に努めてほしいと思います。

穴井教官は、本校教官の中で最年少。救急～応用訓練～ポンプ構造とオールラウンダーであり、初任科学生の体力向上のために様々なメニューを考えるアイデアマン。そして、「しずおか市町対抗駅伝」にも出場している救命士ランナー。

… 初任科、水難救助科のプールでの救助訓練で真っ黒に日焼けし、たくましさ上昇中。(校長)

